

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高山市立 おひさま教室		
○保護者評価実施期間	2025年2月28日 ～ 2025年3月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22 (回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2025年2月21日 ～ 2025年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境 ・療育室の広さに限りはあるが、環境を整えることで十分な運動遊びもができています。	・大型遊具の設置場所に配慮したり、併設園のホールや園内でも使用させてもらい、十分な運動遊びを楽しむことが出来ている。療育室が広すぎないことで、周囲に視線が移りにくく、療育活動に集中しやすい。	・身体を動かす遊びは、発達支援のなかでも重要である。継続的にダイナミックな活動ができるよう遊具の設置を工夫する。
2	適切な支援の提供 ・支援前に職員間で打ち合わせをし、支援計画に基づき、支援の内容や役割分担について確認している。 ・支援後に支援内容を振り返り、次の支援へとつなげている。	・隔週で利用児の担当を交代し、児の状況を共有する。 ・職員間で利用児のアセスメントや教室全体の課題等を共有している。	・職員間での話し合いの時間を確保。 ・こどもの発達支援に関する研修会の参加により、職員の支援力の向上を図る。
3	関係機関との連携 ・連携して支援を行える体制が整っている。	・併設の保育園との情報共有や、園での日常的な姿を観察することで利用児に対する共通認識ができています。	・共通認識を深めることで、利用児の更なる支援に繋げる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適切な支援の提供 ・分野横断的な対象児のアセスメントや評価が難しい。	・アセスメントや評価が担当職員の主観によるものが大きい。	・こどもの適応行動の状況判断のために、どのようなツールを使うか検討が必要。 ・必要時、発達検査の実施や多職種による分析や評価の場を持ち、偏りのない分析評価とする。
2	保護者への支援 ・保護者同士の交流の場がない。	・保護者会が存在していない。 ・保護者の開催希望の有無が分からない。 ・併設園在園中の療育で保護者同士会う機会が少ない。	・今後保護者支援会の開催について、必要に応じて検討していく。